

## &lt;調査速報&gt;

メキシコ合衆国ベラクルス州メディアス・アグアス遺跡調査の新成果<sup>1</sup>マリア・アルノ<sup>2</sup>、ロベルト・ルナゴメス<sup>3</sup>、古手川博<sup>4</sup>

## 1. はじめに

メディアス・アグアス遺跡に関する最初の報告は、「メディアス・アグアス遺跡の大仮面(Mascarón de Medias Aguas)」と呼ばれる大型石彫の発見を受けて1950年代半ばに現れた(Medellín 1960, 1971)(図1)。しかしながら、テワンテペック地峡の北端地域における先スペイン期のセトルメント・パターン研究を目的としたメディアス・アグアス考古学プロジェクト(Proyecto Arqueológico Medias Aguas-PAMA、以下 PAMA と称する)が1999年以降に実施されるまでは、この遺跡やそ

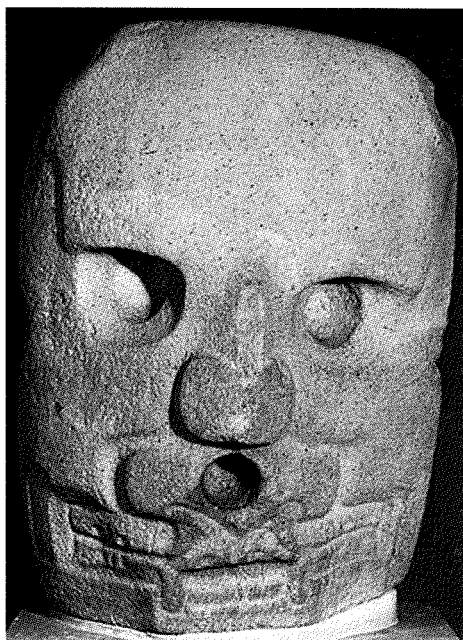


図1. ハラバ人類学博物館に展示されている「メディアス・アグアス遺跡の大仮面」

- 
- 1 本稿はアルノの原稿 (Arnaud 2008) を元に著者3人によりスペイン語で共同執筆したものであるが、日本語訳の誤りは全て古手川に責任がある。
  - 2 ベラクルス大学メディアス・アグアス考古学プロジェクトメンバー
  - 3 ベラクルス大学メディアス・アグアス考古学プロジェクト調査団長、ベラクルス大学付属ハラバ人類学博物館学芸員
  - 4 ベラクルス大学メディアス・アグアス考古学プロジェクトメンバー、メキシコ国立自治大学大学院博士課程

の周辺地域は事実上不明なままであった。

現在のベラクルス州南部サユラ・デ・アレマン市に位置するメディアス・アグアス遺跡は(図2)、南北の方向軸(広場Ⅰと広場Ⅲ)や東西の方向軸(広場Ⅱ)を持つ大小3カ所の主要広場とその周囲に少なくとも17基のマウンドを有している。高さ15mを超える遺跡内で最も大きなマウンドは、広場Ⅰの北端を閉じている(図3)。現在の地表面で観察される建造物はおよそ15haの一地域内に分布しているが、遺跡自体はおそらく40haほどの広がりを見せると考えられる。

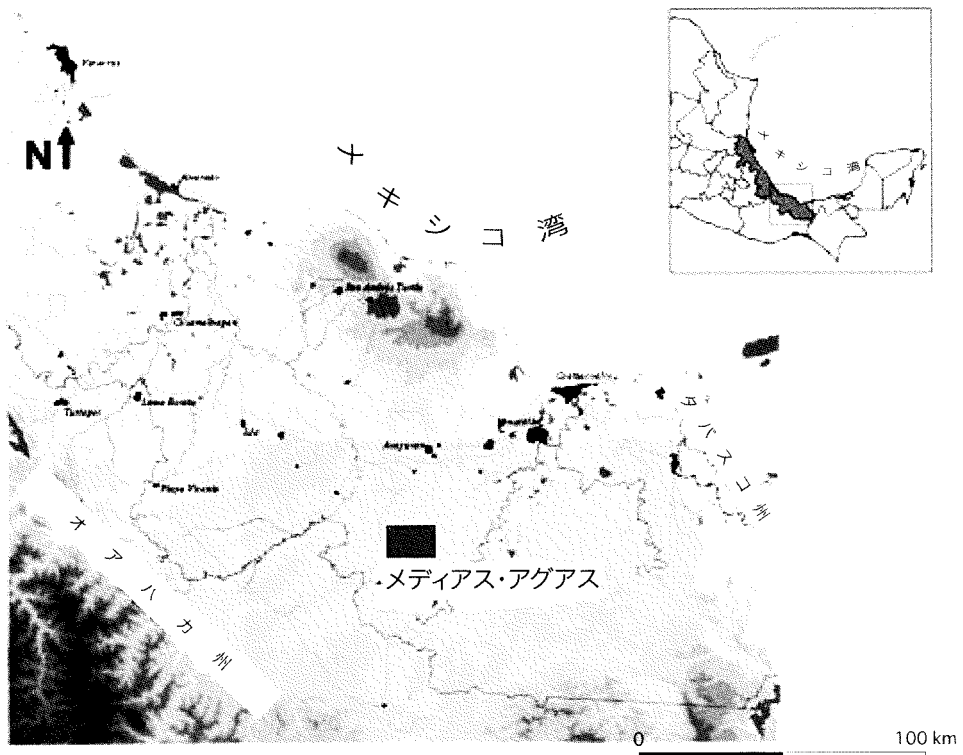


図2. メディアス・アグアス遺跡およびベラクルス州の位置 (www.google.com.mx を一部改変)

## 2. 2004年度調査の概要

2004年度の調査では、メディアス・アグアス遺跡における初めての本格的な地形測量と発掘調査が行われた。地形測量はトータル・ステーションとプログラム「Site System IV」を利用し黒崎充氏によって実施された。この地形測量によって3カ所の長方形広場(広場Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)と17基のマウンドが3次元デジタルデータとして記録された。おそらく広場Ⅰと広場Ⅲは北西方向に12度傾いた同様の中心軸を持つ。また、広場Ⅱの方向軸は、当遺跡最大のマウンド(No.1)から西方に90度の方向軸を示す。2004年度の調査では、広場Ⅰから更に南東及び北東に観察されるその他の広場やマウンド群を含む広大な領域およそ40ha全てを測量する事はできなかった。しかし、13カ所の発掘地点も3次元データで記録された。さらに、「メディアス・アグアス遺跡の大仮面」

と呼ばれるこの遺跡唯一の大型石彫発見の推測地点も記録された。

1999年度、2000年度および2003年度に実施された分布調査のデータによると、遺跡内の至る所で様々な時期の遺物が発見されている。特に、マウンドNo.1の北側で東西方向に若干隆起して舌状に張り出した地点で土器片の分布が集中していたために、この場所が発掘地点として選択された。

発掘調査は13カ所で行われ、トレンチ及びテスト・ピットで集中的に行われた。11カ所の発掘地点（トレンチ1～5（1×3m、1×4.5m）とテスト・ピット1～6（1×1m、1×2m、2×3m））では、自然層位に加えて20cm毎の人為的層位を複合させた厳格な分層方法を用いて出土状況の記録や遺物の取り上げが行われた。さらに、当遺跡の占有時期の連続性を層位的に把握するために、2カ所の切り通して地層断面が露出した崖面の清掃が実施された。

各発掘地点では、土器片、土偶、黒曜石製打製石器を含む様々な考古遺物が出土した。また、未だ実施されていないが、放射性炭素14年代測定のために炭化物や古環境学的な分析のための資料も採集されている。

### 3. 各埋葬の詳細

2004年度の調査を通じて、5基の埋葬とその副葬品を含めて様々な重要な発見があった。これらの埋葬は当遺跡最大のマウンドの北方に位置していた（図3）。以下に各埋葬の考古学的な出土状況と形質人類学的な所見を記述する。

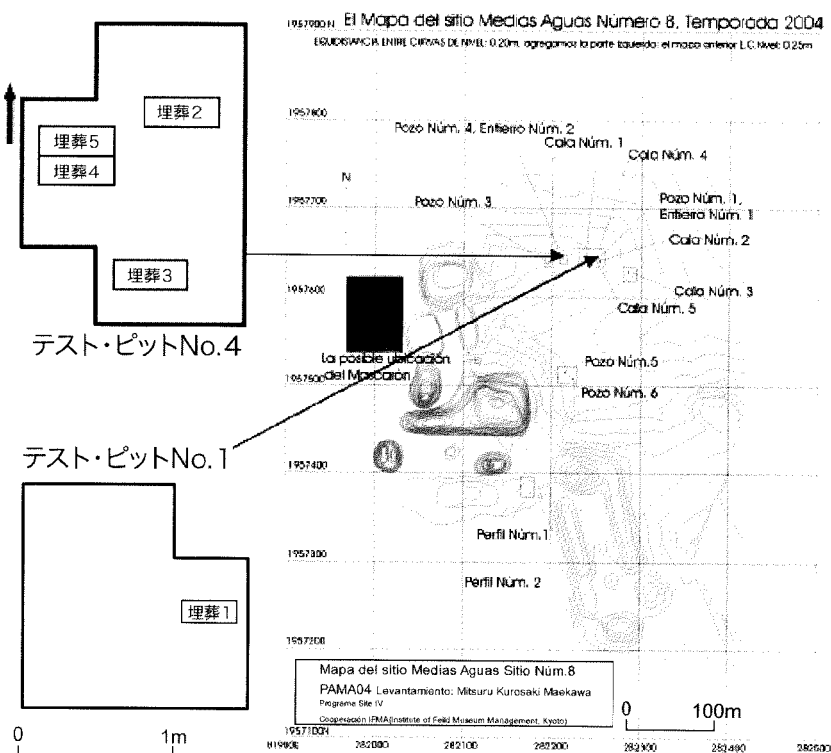


図3. メディアス・アグアス遺跡の測量図および各埋葬の位置図

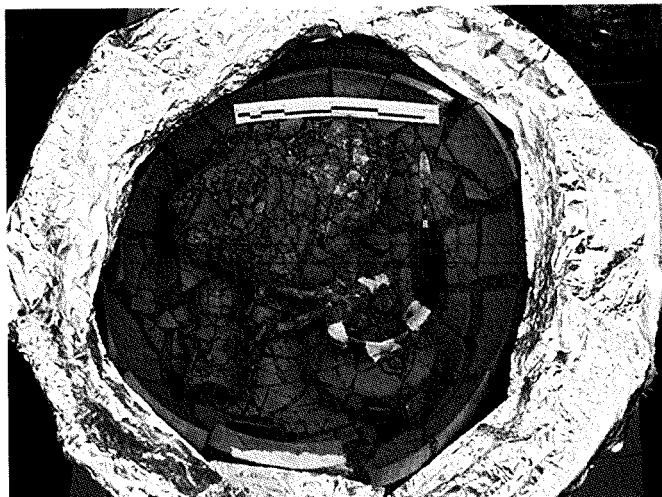


図4. ブロック発掘されて研究所に持ち帰られた埋葬1

#### 埋葬1 (図4)

テスト・ピット No.1内約80cmの深さで検出された。大きな土器の中に、小型の尖底土器1点、平底の鉢1点、ミニチュアの甕2点、そして肩の部分で腕と胴体がひも状のもので繋がっていたと考えられる上半身像土偶2点の副葬品を伴って埋葬されていた。保存状態が良くないために、未だに土器内の人骨の取り上げは行われていない。

#### 埋葬2 (図5)

テスト・ピット No.4内約60cmの深さで検出された。一次埋葬で、地中に直接埋葬され、屈葬されていた。副葬品は甕3点、ボタン状の三脚を持つ鉢1点、コップ形土器1点、赤彩された深鍋1点で構成されていた。形質人類学的な分析によれば、頭蓋骨の形状と縫合線が完全に閉じていることから成人女性と考えられる。また以下の症状も観察される：上顎門歯のエナメル質形成不全、上顎両犬歯と下顎左犬歯に歯石と虫歯、右上腕骨上端部および中程に炎症および変形、脛骨に打撲痕と炎症。

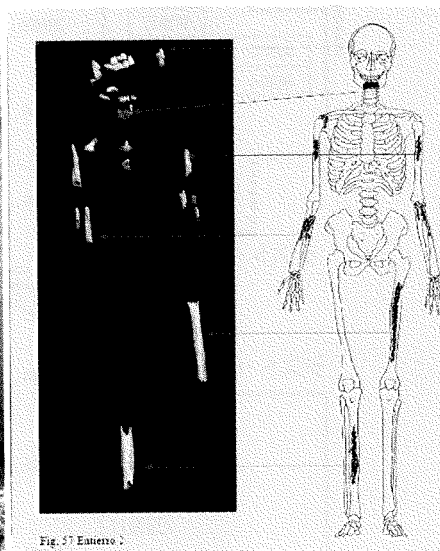


図5. 埋葬2出土状況および出土人骨の部位

## 埋葬3 (図6)

テスト・ピット No.4南部拡張部内約80cmの深さで検出された。埋葬2と同様に一次埋葬で、地中に直接埋葬され、屈葬されていた。埋葬されていた人物は、頭蓋骨の形態や大臼歯の消耗具合の特徴から、25歳から35歳くらいの成人男性と考えられる。上顎の門歯に歯牙変工が施されている事が観察され、オレンジ色の木目細かい胎土を用いた直径約20cmの器壁が湾曲しない浅鉢1点が副葬されていた。

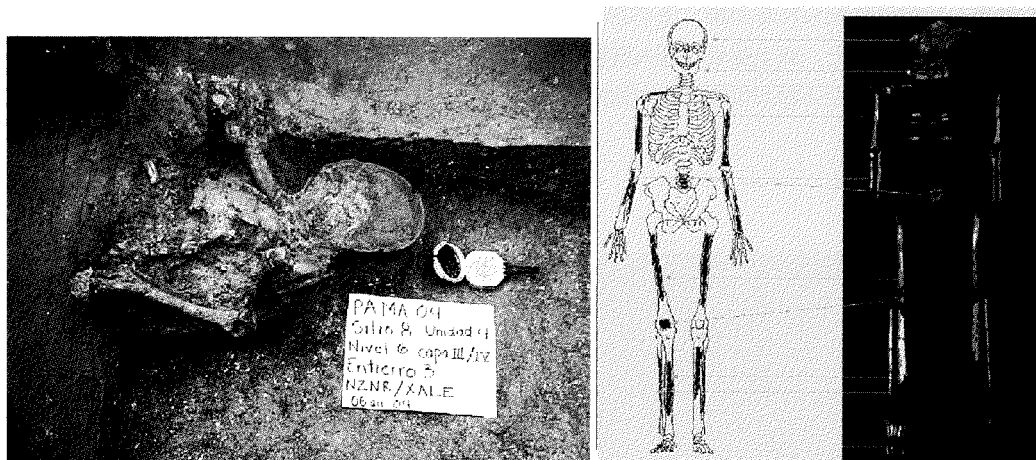


図6. 埋葬3出土状況および出土人骨の部位

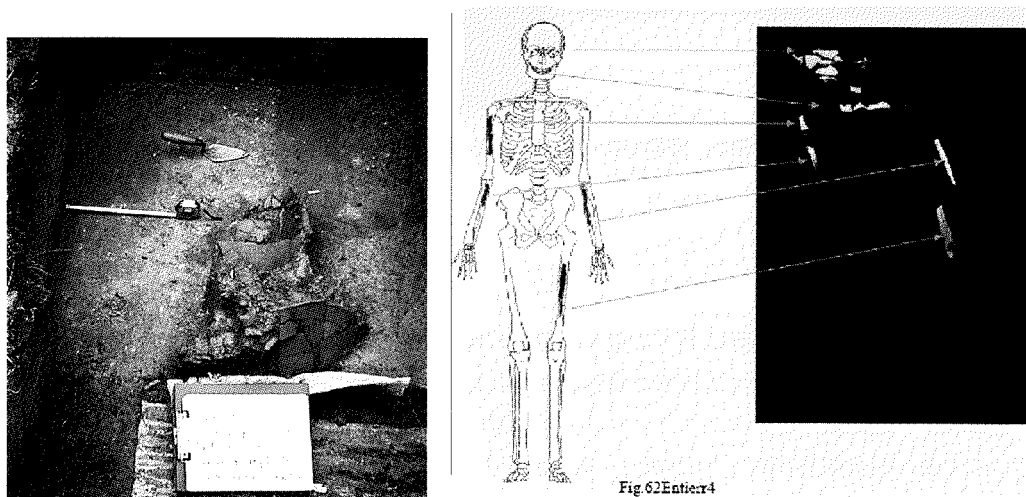


図7. 埋葬4出土状況および出土人骨の部位

## 埋葬4 (図7)

テスト・ピット No.4西部拡張部内約50cmの深さで検出された。埋葬1と同様に甕の中に遺骨が納められており、二次埋葬である。三脚がついた鉢3点、ミニチュアの壺1点、そして黒色の黒曜石製錐と灰色の縞の入った黒曜石製槍先が1点ずつ副葬されていた (Arieta 2006)。また、粘土製ビーズ1点や赤色顔料も検出されている。人骨の保存状況が良くなかった事から、詳細な形質人

類学的な分析を実行できなかった。

#### 埋葬5 (図8)

テスト・ピット No.4西部拡張部内64cmの深さで検出された。大型の無頸壺 (apaxtle) の中に屈葬されていた。複数の小型甕や小型無頸壺が副葬されていた。埋葬されていた人物は25歳から35歳くらいの成人で、おそらく女性であろう。人骨には、上下門歯の消耗、上顎両犬歯と下顎左右の第一大臼歯に見られる虫歯、上下共に門歯と小臼歯に多くの歯石が形成されるといった様々な症状が観察された。両上腕骨、両大腿骨そして両脛骨に若干の骨膜炎の痕跡、頸椎には変形性関節炎が見られこの人物の栄養不良が推測される。

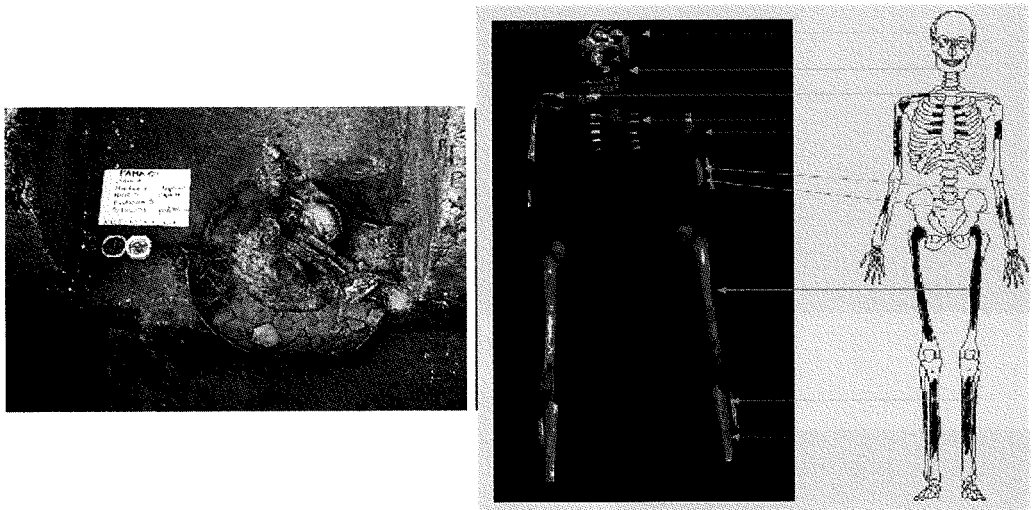


図8. 埋葬5出土状況および出土人骨の部位

#### 4. まとめ

メディアス・アグアス遺跡における数々の最新の研究成果、特に埋葬習慣に関する最新の成果は、同遺跡の最終段階に関する重要な情報を我々に提供している。

先スペイン期におけるメディアス・アグアス遺跡の最盛期は、この遺跡に特徴的な属性を与えている大型の記念碑的彫刻 (「大仮面」)、副葬品を伴う5基の埋葬そして広場に配列された記念碑的建造物の建設から、古典期終末期のピジャ・アルタ期後期 (紀元後800-1000年) であったし、当時のこの地域で最も重要で中心的な遺跡であった (Lunagómez 2005)。

メディアス・アグアス遺跡における埋葬体の形質人類学的コンテキストおよび副葬品の層位的な出土状況や土器型式の分析結果によれば、5基の埋葬の編年的位置づけは、土器編年では前述のように古典期終末期のピジャ・アルタ期後期 (紀元後800-1000年) となる。また、人骨に残る栄養失調に起因する身体上の症状 (関節炎、骨膜炎、歯のエナメル質形成不全) も同定され、歯牙変工といった身体に施される人為的変形という文化的習慣も指摘されている。重要なのは、

酸性土壌という地質的なコンディションのためにペラクルス州南部の大部分で出土人骨の保存状態が良くないことが、この地域の形質人類学的研究不足の一因となっているということである (Arnaud 2008)。

埋葬姿勢や特別に定められた様々な規則に従ったと考えられる独特の埋葬習慣に基づく5基の埋葬が出土した地点は、メディアス・アグアス遺跡最大のマウンド No.1の北方に位置し、副葬品の質や量が示すように、この社会で高い地位にあった階層にとって特別な機能をもっていた場所であった (Arellanos 2007; Lunagómez et al. 2005; Arnaud 2008)。

テワンテペック地峡の北端に位置するメディアス・アグアス地域における本稿の成果やその他の最新の調査が示すように、この遺跡は戦略的に重要な位置を持っていたと考えられる (Lunagómez 2005)。というのも、この遺跡はコアツァコアルコス川とサン・ファン・エバンヘリスタ川の二つの大きな水文学的盆地に周期的に訪れる洪水から無事でいられる隆起した台地上に居住が集中し、人口増加に有利な状況を生み出している。また、メキシコ湾岸やメキシコ中央高原といったその他の地域へと向かう地峡内の人々にとって避けて通る事ができないルート状にあり、情報、資源そして製品などの交換が頻繁に行われていたことは先スペイン期から今日に至るまでの状況が例証している。

## 謝辞

PAMA2004年度調査は、*Foundation for the Advancement of Mesoamerican Studies, Inc.-FAMSI* から授与された研究助成金 (Grant # 03084) によって実施された。

南博史氏によって運営される *Institute of Field Museum Management-IFMA* から本調査のために優れた測量機器およびソフトウェアを借用する事ができた。

黒崎充氏には2004年度調査の測量調査及び発掘調査において主任調査員として参加していただき多大なご助力を賜った。

ピエール・マソン氏には、1998年以降今日に至るまで PAMA に対して様々な研究の援助を賜っている。

そして、このような研究成果を発表する事ができたのは PAMA に参加頂いた全てのメンバーおよび友人達の多くのご助力の賜物であり、彼ら一人一人に感謝の意を表したい。

## 引用文献

Arellanos Soto, Paulina.

- 2007 La restauración y conservación arqueológica de los materiales cerámicos del sitio de Medias Aguas, Veracruz. Trabajo-práctico científico de Licenciatura en Arqueología-Facultad de Antropología, Universidad Veracruzana, Xalapa.

Arieta Baizabal, Virginia.

- 2006 El estudio de la industria lítica tallada de los sitios arqueológicos de Medias Aguas, Veracruz: Análisis tipológico. Trabajo-práctico científico de Licenciatura en Arqueología-Facultad de Antropología, Universidad Veracruzana, Xalapa.

Arnaud Salas, María.

- 2008 Los entierros de Medias Aguas, Veracruz: Un acercamiento a sus prácticas funerarias. Tesis de Licen-

ciatura en Arqueología-Facultad de Antropología, Universidad Veracruzana, Xalapa.

Lunagómez Reyes, Roberto.

- 2005 Investigaciones Arqueológicas en Medias Aguas, Veracruz, México. Reporte Final a la *Foundation for the Advancement of Mesoamerican Studies, Inc.*-FAMSI, Crystal River, FL. <http://www.famsi.org/reports/03084es/index.html>

Lunagómez, Roberto, Xóchitl León y Nelly Núñez.

- 2005 Hallazgos recientes en el sitio Medias Aguas, sur de Veracruz. Arqueología 34 : 30-37 Revista de la Coordinación Nacional de Arqueología del INAH, Segunda Epoca, enero-agosto. INAH, México.

Masson, Pierre.

- 2001 Influencia de la tectónica salina sobre la geomorfología en la cuenca salina del istmo veracruzano y sus consecuencias sobre el ambiente habitacional y cultural de los olmecas y de culturas ulteriores. Ponencia presentada en el II Foro de Arqueología, Facultad de Antropología de la Universidad Veracruzana, Xalapa.

Medellín Zenil, Alfonso

- 1960 Monolitos inéditos olmecas. La Palabra y El Hombre 16 : 75-97. Universidad Veracruzana, Xalapa.
- 1971 Monolitos olmecas y otros en el Museo de Antropología de la Universidad Veracruzana. Unión Académica Internacional. INAH, México.